

## ヤングケアラー実態調査の結果について

区におけるヤングケアラーへの支援強化に向け、必要な支援策を構築するため、ヤングケアラー当事者だった方の助言を踏まえた実態調査を実施しました。今般その結果(速報値)がまとまりましたので、概要について報告します。

### 1 調査の対象及び方法等

調査対象	調査期間	調査方法	回収数・率
区立小中学校児童・生徒(※) (28,835人)	令和5年9月1日～22日	学校を通じて調査を依頼 学習用タブレットで回答	23,395人 (81.1%)
区立小中学校 校長等管理者 (63校)	令和5年9月1日～22日	調査依頼をメールで送付 Web回答	55校 (87.3%)
障害者・高齢者に関わる区内 事業所(約620人)	令和5年7月18日～31日	調査依頼をメール・紙で送付 Web回答	131人 (21.1%)

※特別支援学校、特別支援学級を除く

小学校1年生、2年生は、お世話をしている人の生活での困りごと、お世話をしている人の有無と内容の調査

小学校3年生以上は、お世話をしている人がいる場合に生活への影響や相談先等を追加で調査

### 2 調査結果の概要

#### (1) 児童・生徒調査(小学3年生以上)

- 家族の中にお世話をしている人がいる  
小学生 2,183人(18.7%) 中学生 596人(11.7%)
- お世話をしている家族やお世話の悩みについて誰かに相談したことがあるか  
「誰にも相談したことがない」27.4%
  - ・相談していない理由  
「相談するほどの悩みではないから」58.7%  
「理由は特にないが相談しようと思わなかった」20.9%  
「相談しても何も変わらないから」3.6%
- 学校や周りの大人にしてもらいたいことはあるか  
「とくにない」57.5% 「わからない」13.5% 「自由に使える時間が欲しい」10.5%  
「勉強を教えてほしい」10.3% 「自分のことについて話をきいてほしい」6.8%  
「悩みごとを聞いて、解決して欲しい」6.0% 「自分や家族のことを理解して欲しい」5.1%

#### (2) 学校調査

- ヤングケアラーと思われる子どもがいるか  
「いる」と回答した学校 21校
- ヤングケアラーと思われる子どもの状況(内訳 小学校2年生から中学3年生までの32人)  
「家族の代わりに幼いきょうだいの世話をしている」13人(61.9%)  
「障がいや病気のある家族に代わり家事をしている」4人(19%)  
「家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている」2人(9.5%)  
「アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している」2人(9.5%)

- ヤングケアラーの子どもの有無について「わからない」と回答した理由（該当校数 16 複数回答可）
  - 「家族内の事で問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」 16 校
  - 「子ども自身やその家族がヤングケアラーという問題を認識していない」 8 校
  - 「不登校やいじめなどに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる」 3 校

### (3) 事業所調査

- 過去 1 年間で相談や支援等で関わった家庭にヤングケアラーと思われる子どもがいたか
  - 「いた」と回答した事業所 13 所
  - ・気づいたきっかけ
    - 「支援業務の中で家族・親戚などの話から気づいた」 8 所
    - 「行政や関係機関・関係者からの話で気づいた」 5 所
    - 「子ども本人の話から」 3 所

## 3 調査結果から確認できた主な内容

### (1) 児童・生徒調査

世話をしている家族のことやその悩みについて、「相談するほどの悩みではないから」等の理由で相談していない割合が高いが、学校や周りの大人にしてほしいこととして「勉強を教えてほしい」、「自分のことについて話をきいてほしい」、「悩みごとを聞いて、解決して欲しい」などのニーズもあることから、些細な事でも相談して良いことを子どもたちに伝え、相談のハードルを低くする必要があるのではないか。

### (2) 学校調査

発見が難しい要因として、「ヤングケアラーは家族内の事で問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」や「ヤングケアラーである子ども自身やその家族がヤングケアラーという問題を認識していない」を選択した割合が高いことから、ヤングケアラーである子どもがそのことを認識し、現状や困っていることなどを自ら発信できるようにすることが、周りの大人の実見につながる大事な要素なのではないか。また、ヤングケアラーの実見に気づくことができるよう、周囲の大人の実見感度を更に高める必要があるのではないか。

### (3) 事業所調査

ヤングケアラーの実見が相談業務の中であったり、支援の中での子どもの話からであったりすることから、家庭の状況を把握しやすい介護支援事業所などが、見えにくいヤングケアラーの存在に気づき、支援につなげられるのではないか。

## 4 来年度に向けた取り組み

調査結果（速報）で確認できた以下の視点と、今後の詳細な分析をふまえ、この間の支援に加えて令和 6 年度以降に取り組む支援策について具体化を図っていく。なお、支援策の構築にあたってはヤングケアラー当事者だった方たちの意見を改めて聴取する。

- (1) 様々な機会を通じた、子どもに向けたヤングケアラーについての周知活動
- (2) ヤングケアラーが、安心して相談できるような支援策の構築
- (3) 発見感度を高めるため、今年度に引き続き高齢分野、障害分野の事業者及び学校向けの研修に取り組む。なお、これまで対象としてきた分野以外の家庭の様子を把握しやすい民間事業者等の把握に努め、研修の対象を広げる。